

1週間前の4月14日夜、熊本県を震源とする強い地震が発生しました。その後も大きな余震が続く中で、16日未明には、本震とされる大地震が発生しました。14日の揺れで倒壊を免れた家に戻っていたり、生活必需品を取りに帰っていたりした方がいる中で、大規模な土砂災害が発生したり、家屋が倒壊したりしたことで、今朝の時点で48人の方が命を落とし、南阿蘇村で2人が行方不明、関連死と見られる方が10人います。また、12万人近くの人々が避難生活を強いられています。今日は九州地方では大雨が降り、被害の更なる拡大が懸念されます。

余震の揺れが徐々に収まっても、14日の前震の後で16日の本震を経験した方々には、状況が収まりつつあるとはなかなか思えないでしょう。

古くからの友人が熊本市内に住んでいて、昨日、SNSでこんなメッセージをもらいました。

14日の地震からやがて1週間ですが、相変わらず避難所と自宅を行ったり来たりしています。命があることに感謝して、今日も1日頑張ります。

はっきりいって、私も含め熊本県民は熊本でこんな大地震は想定外だったと思います。人間というのは勝手なもので、やっぱり自分の身に降りかからないと、所詮、他人事だとよくわかりました。

テレビやラジオを見たり聞いたりする余裕がなくてよくわからないのですが、阿蘇が今、非常に危ない状態だと思われまます。

自分には関係ないと思っていても、明日は我が身と肝に銘じてください。これを読んでいる皆さんも、最低限の非常食や水などは確保しておいた方が良いでしょう。今回の地震、どんどん広がっているので、どう飛び火するかわかりません。いつ、どこで、何が起きても不思議ではない状況と思われまます。

というものです。

こうした甚大な被害をもたらす自然災害は、発生そのものを人間の力で抑えることはできません。しかし、人的な被害を最小限に抑えることはできるはずです。そのために、何をすればいいのか、日ごろどんな心構えをしておけばいいのか。

去年も言いましたが、本日の避難訓練で皆さんに話しておきたいことは次の3つです。

- 1 試合では頑張るので、練習はいい加減でも大丈夫、そう思っている人はいますか？ いまませんよね。練習でできないことが、本番でできるはずがない。避難訓練でできないことが、実際の災害時にできるわけがない。そのための訓練です。
- 2 火災報知器の非常ベルが鳴っても、すぐに人は逃げません。また誤作動かな？ 今日訓練だっけ？ 前は大丈夫だった、自分は大丈夫、自分だけ逃げるのはカッコ悪い、といった様々な理由で、なかなか逃げない。そういう雰囲気を断ち切り、あなた自身が勇気を持って逃げ始めることが、皆の命を救うことになるのです。
- 3 いざという時には、まず何よりも先に自分の命を自分で守るための行動を取りなさい。

自分の命を守った後には、小さな子供やお年寄りに手を差し伸べて欲しい。皆さん高校生は、人の一生の中では決して弱者ではない、強者です。だからこそ、大きな災害に見舞われた時には、弱者の命を守ることも考えて欲しい。

以上3つ、君たちは西高生だから、できるだろうと期待しています。

昨年につき、10月には本校体育館を中心にして地域の防災訓練が行われます。昨年はいくつもの部活動の生徒を中心に150名近い生徒が積極的に参加してくれました。今年は10月15日土曜日ですが、2年生は修学旅行のため沖縄にいて参加できませんので、1年生と3年生の積極的な参加を期待しています。

万一に備えて、いざという時に自分たちができることを確認し身に付けておきましょう。

もし万一、その前に本物の災害に見舞われてしまった時には、昨年の訓練に参加してくれた多くの2・3年生、君たちが頼りです。その訓練の成果を見せてください。